

第34回甲賀市水道事業審議会 概要報告

1. 開催日時 平成30年2月16日(金) 午後2時00分から午後4時00分まで
2. 開催場所 甲賀市役所 別館1階 会議室101
3. 議 題
 - ・審議
平成29年度甲賀市水道事業会計決算見込みについて
平成30年度甲賀市水道事業会計予算(案)について
 - ・報告
甲賀市水道事業アセットマネジメントについて
 - ・会議内容の公開、非公開について
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 出席者
 - 委 員 村山委員、大治委員、永野委員、小野委員、風岡委員、
高橋委員、植西委員、奥出委員、以上8名
 - 事務局 上下水道部 小嶋部長、立岡次長
上水道課 藤田課長、山川課長補佐 平子係長
上下水道総務課 大谷課長、福田課長補佐、井上係長 岡崎係長
6. 傍聴者数 0人
7. 会議資料
 - 資料1 平成29年度 甲賀市水道事業会計決算見込の概要
 - 資料2 平成30年度 甲賀市水道事業会計予算(案)の概要
 - 資料3 甲賀市水道事業アセットマネジメント【概要版】

8. 議事の概要

○出席委員数の報告

出席委員は10名中8名で、委員の3分の2以上の出席であることから、甲賀市水道事業審議会条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを事務局から報告。

○審議

事務局 平成29年度甲賀市水道事業会計決算見込について資料に基づき説明

(質疑)

委員 給水収益は右肩下がりです。給水栓数とは相反する形になっているということか。

事務局 栓数は核家族や単身世帯でも一水栓になりますが、節水機器等の普及により水の需要は減っています。

委員 水道事業の運営において、法令遵守は当然だが、間違いが発生したときの対処についても法令遵守でお願いしたい。

事務局 今回のことを自分の事として捕らえ、担当部署においても、信頼回復に努めます。

委員 有収水量の話だが、有収率は出てないのか。

事務局 平成28年度決算時点ですと87%前後です。

委員 有収率は上がってきているのか。

事務局 大きくは上がっていません。老朽管の更新や漏水調査により漏水という形の有収率低下の要因は改善してきていると思います。別の要因によって有収率が上がらないという状況はあります。

委員 有収率はだんだん100%に近づいているのか。もっと上げていく方向なのか。

事務局 上げていく方向です。

委員 工夫できることはあるのか。

事務局 老朽管の更新と漏水調査による修繕です。すべての老朽管を更新行っていくことは費用的に難しいため、漏水調査で地道に修繕していくことになります。

委員 公園のトイレなどはメーターが付いているのか。

事務局 付いています。

- 委員 有収率が100%まであと13%の要因は、漏水と破裂によるものだけか。
- 事務局 凍結対策で流している分と、防災訓練や火事等で消火栓を利用したときに、急速に水を流すことで出てしまう管のさびなどの濁りを取るために流す分があります。
- 委員 維持管理費の決算見込みが当初より7千万円の減で、修繕費分だと思うが、これを残したから87%になったということはないのか。
- 事務局 そうではありません。漏水に対する修繕対応の予算は確保しています。
- 委員 漏水の修繕は年間何件くらいか。
- 事務局 大小含めて年間600件くらいです。1日あたり1.5~2件くらいです。
- 委員 有収率は他の団体に比べてどのくらいか。
- 事務局 他の類似団体は27年度で88.37%、全国平均は89.95%で、甲賀市はそれよりも低いです。甲賀市の特徴として、面積が広く管路延長が長いということで多少の影響があります。
- 委員 借入金の償還をどのようにしていくかという問題がある中、老朽管の更新を行っていかなければならないということが、有収率にも影響しているのではないか。
- 事務局 企業債は、今年度の償還が元金で4億1千2百万円、借入れが3億5千7百万円で基本的には返す以上には借りずに残高を減らしていく方向です。
- 事務局 老朽管の更新箇所の選定やどのように費用をかけていくか等については、後ほどアセットマネジメントで報告させていただきます。企業の経営としてそれらのことも考えていかなければいけないと思っています。
- 委員 収納率の推移だが、26年度は94.90%ではなかったか。28年度の決算概要の資料と違う。
- 事務局 精査いたします。
- 委員 滞納は何件くらいあるのか。

事務局 大体1,000件くらいです。分納により徐々に減っていく方もありますし、納付されない場合は給水停止をして納付していただくようにしています。

事務局 納付については、口座振替を推奨しています。未納の方については、滞納整理で納めやすい方法を相談して進めています。口座振替率は84.85%で、率を上げていくことが必要だと考えています。昨年度と比べ収納率は若干上がっていて、売り上げに関わる部分ですので、管理をしっかりとやっていこうと思っています。

委員 催促に行っているのは、別組織からか。

事務局 包括的に委託している業務がありますので、その中で対応していただいています。大口の案件等は別体制で、こちらで対応することもあります。

委員 水質について苦情等はないか。

事務局 特にありません。たまに宅内配管の劣化等で問い合わせがあることがあります。

委員 その問い合わせ等はお客様センターに入るのか。水道課か。両者の連携は取れているか。

事務局 問い合わせはほとんど水道課にあります。連携はできています。

委員 県水の水質に対する苦情はないか。

事務局 県は県で水質検査をしていますし、市も責任をもって検査しています。

委員 県水を受水しているところはどこか。また自己水はどこか。

事務局 土山と信楽は自己水のみです。甲賀と甲南は両方、水口は県水のみです。

委員 県水は琵琶湖の水ではないのか。

事務局 野洲川の三雲のあたりで取水している水です。水質的な条件は良いと思います。

委員 県水というと琵琶湖の水だと思う。その辺の正しい情報も出すようにしてほしい。

事務局 平成30年度甲賀市水道事業会計予算(案)について資料に基づき説明

(質疑)

委員 漏水調査はどんな調査か。ここが漏れているというのはどうやって分かるのか。

事務局 聴診器のようなもので、音を聞き分けています。専門家又は、熟練の職員でないと難しいです。

委員 どこが漏水しているか分かってするのか。闇雲にするのか。

事務局 施設にどれだけ水が流れているかを見る流量計という計器が付いているため、日常的に監視をしており、水量が多いときは早めに調べています。

委員 場所をピンポイントで探すのは、非常に難しいのではないか。

事務局 配管の図面を持って行って、順番に歩いて探します。配水池が大きくエリアが広い場合は分からないので、漏れてくるのを待つしかない場合があります。

委員 有収率100%というのは難しいということか。

事務局 広い範囲を1軒ずつ歩いて調べるため手間がかかります。漏水が多そうなところを見計らって調査しています。

委員 漏水のために土砂崩れや陥没など事故が起こると大変である。エリアごとに調査していただきたい。

事務局 分かりました。

委員 有収率を1%上げれば、1千万円くらい経費削減になるのではないか。1%をおろそかにせず、今後も努力していただきたい。

委員 施設が老朽化している上に人口が減少している。水道事業の存続が難しくなり、全県でひとつの事業体になった事例を新聞で見た。滋賀県や甲賀市はそのような問題や不安はないのか。

事務局 国は広域化を勧めています。滋賀県でも協議会の中で、先進地視察等の勉強を行っているところで、徐々にそういった方向に進む予定です。

委員 甲賀市も例外ではないということか。

委員 我々審議会や議会だけでなく、住民の方にも水道の将来像や施設更新に必要な費用を分かりやすく示し、危機感を共有してもらうべきである。

事務局 広域化については、徐々に進む話は出ています。住民の方にそういった情報をお知らせすることも大切であると思っています。

委員 7ページの地図で5番は朝宮と多羅尾の2箇所を結んでいるが、どういうことか。

事務局 同じろ過池更生の工事で、まとめて発注予定のため2箇所を結んでいます。

委員 6ページの工事箇所の説明で長野地区の設置が昭和58年ということであったが、それより古い施設でここには挙がっていないが更新を急ぐ施設はあるのか。

事務局 長野地区は下水道関連の工事で、下水工事の際に水道が邪魔になりますので、新しくてもどけないといけないということがあります。

委員 優先順位の高いところは把握しているか。

事務局 把握しています。それについてはアセットマネジメントで説明します。

委員 先日メーターの交換に来られたが、悪くなくても何年かに一度交換しないといけないのか。

事務局 8年で交換するように計量法で定められています。

委員 メーター交換の実施率はどの程度か。

事務局 8年ですべて交換しています。ただ、閉栓中の水栓については次に開栓するときに交換しています。

○報告

事務局 アセットマネジメントについて資料に基づき説明

(質疑)

委員 人口が7万人まで減少するのはいつか。

事務局 2060年です。

委員 この数字は、人口問題研究所等のデータではなく、市のプランとしての人口推計の内容で、他のデータと差があると思うが。

事務局 人口問題研究所のデータではもっと下がる見込みですが、何とか人口増加につながる施策をしていこうとという目標のもとでの数字です。

委員 現実的には、もっと減少を見込まないとやっていけないのではないか。試算の耐用年数は法定耐用年数ではなく厚生労働省の実使用年数に基いていくということか。

事務局 実使用年数で試算していきます。

委員 重要施設等の耐震化はどのように考えているか。

事務局 まだ、更新しなくてももつ施設については、できるだけ使っていく方向です。

委員 水源地、浄水場、導水管など重要幹線は必然的に耐震化していくことになると思うが、幹線管路をどこまでしていくか。

委員 試算台帳の簿価はいくらか。

事務局 有形固定資産の29年度簿価は、209億1400万円です。

委員 実使用年数で算定すれば、もっと増える試算になる。

委員 2031年には資金不足になる試算だが、料金改定についてはどう考えているか。

事務局 甲賀市は県水の受水費が、費用の1/3かかっています。県水の料金改定が33年度の2年位前から検討されますので、こちらの施設更新と併せてシミュレーションしていきます。

委員 県水は5年のスパンでどんどん上がっているのではないか。

事務局 これまで甲賀市は基本料が高かったが、28年度に統一になり下がりました。県

でもアセットマネジメントをされていて、当初の計画よりも使っていない施設をダウンサイジングするような計画もされています。タイミング的には県水の料金改定の時期くらいに市の方も検討が必要です。

委員 口径規模を小さくするという事か。

事務局 水需要が伸びる見込みで要望して施設を造ってもらってありましたが、実際には口径が大きすぎる状態です。

委員 給水人口が減るなら口径も変えないといけない。
いずれにしても料金改定は避けて通れない話になってくるため、早め早めに準備いただきたい。

事務局 当たり前に出ている水ですが、施設は更新が必要で費用がかかります。水道料金はそういった中で決まるという認識を持ってもらうことは大切だと思います。

委員 人口が2万人減ると経営は難しい。

委員 やはり人を増やす施策を市全体で考えないと解決しない。

委員 施設が多すぎるのではないか。施設の統廃合を考えないといけない。

事務局 地形的なこともあり、難しいこともあります。

委員 極端な話になるが、1軒2軒のために長い距離の管路を整備や更新しなくて良いように、簡易のタンクなどで対応するといったことが考えられないか。

事務局 下水は公共下水ができなくても浄化槽で対応できますが、水道で考えると、今言われたようなものか、宅配とかです。長い距離を整備せず、施設も持たなくて良いようなものを考えられるといいのですが。

委員 今言われたような意見も考えていかないといけない。

○会議内容の公開又は非公開について

事務局 本日の会議内容の公開・非公開は、本日配布した資料等にも個人情報等の非公開にしなければならない案件は含まれていませんので、すべて公開としたいと思っております。なお、前回同様、議事録の発言につきましては、個人名ではなく、委員と記載して公開させていただきます。